

「再犯防止×地方創生」トピックス 矯正施設所在自治体会議総会を開催しました！

本年 6 月 12 日、ホテルニューオータニ東京（東京都千代田区紀尾井町）において、令和 6 年度矯正施設所在自治体会議総会を開催しました。42 の自治体から首長等が出席され、また、来賓として小泉龍司法務大臣に御臨席いただくとともに、林芳正内閣官房長官から祝電をいただきました。

高野律雄会長（府中市長）による開催挨拶の後、小泉法務大臣から、「第二次再犯防止推進計画に基づき、刑事司法関係機関と協力して、「地域における包摂の推進」をけん引していきたい」旨の挨拶が述べられ、本会議の取組に期待を寄せられていました。

議事では、本年度の活動方針について、「関係機関等と

連携した再犯防止策を推進するための情報交換、調査研究、国及び都道府県への政策提言等の推進」が決議され、これまでの「矯正施設と連携した再犯防止 × 地方創生策の推進」の取組に加えて、地方創生研究会や地域部会の機会を捉えて、再犯防止に係る新たな取組を行っていくこととなりました。

また、所在する矯正施設が令和 6 年度末で廃庁となる予定である豊明市から、本会議への参加継続の申し出があり、引き続き本会議に参加いただけることになりました。

地域における再犯防止推進に資するよう、本会議の取組をますます充実させていきたいと思っておりますので、会員自治体の皆さまの引き続きの御協力をお願いいたします。



小泉法務大臣を囲んでの記念撮影



総会の様子



小泉法務大臣の御挨拶



高野会長の御挨拶

（事務局から）

本年度の総会も、おかげさまで盛況の内に終わることができました。地方創生研究会や地域部会も、会員自治体皆様の声に基づいて活動していきたいと思います。今年度もぜひ想いやアイデアをお聞かせください。

最後に、本年度の総会開催に当たり、首長の皆様をはじめ、多くの方の御協力を賜りましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

Revitalization

そうせい

×

きょうせい

Correction



- 愛知県瀬戸市の紹介
～瀬戸少年院、保護司会との連携～
- 瀬戸少年院の地域と連携した取組
～90年目の連携～
- 「再犯防止×地方創生」トピックス
矯正施設所在自治体会議総会を開催しました！

愛知県瀬戸市の御紹介 ～瀬戸少年院、保護司会との連携～

愛知県瀬戸市は、名古屋市の東約 20km に位置し、やきものの代名詞である「せともの」の語源であるように、千年以上の窯業の歴史をもち、「陶都」とも呼ばれる都市です。やきものの生産が休むことなく連綿と現在まで続いており、このような産地は世界的に見ても瀬戸市だけと言えます。この積み上げられた歴史の中で、生み出されたやきものは、飲食器にとどまらず、便器、瓦、タイル、碍子、ノベルティ、ファインセラミックスなど多種多様な製品となり、日本人の生活・文化を支えています。

瀬戸市の街並みは、やきものづくりの発展とともに形成されてきました。市内の各所には、丘陵地に残る大小様々な窯跡や工房へ続く細い坂道が入り組んでいます。また、窯元の工房も多くあり、「窯垣」と呼ばれる窯道具を積み上げて作られた独特の美しい幾何学模様の景観や、陶製の橋、建物を彩る陶壁があるなど、街の至る所にやきものの産地としての歴史や伝統、文化を感じることができます。

このような背景もあり、平成 29 年に瀬戸焼は、常滑焼（愛知県常滑市）、信楽焼（滋賀県甲賀市）、丹波焼（兵庫県篠山市）、備前焼（岡山県備前市）、越前焼（福井県越前町）とともに、日本六古窯の一つとして日本遺産に認定されました。

また最近では、棋士の藤井聡太さんが生まれ育った街として、メディアを通じて目にされる方が多いと思います。街には、藤井聡太さんと将棋に関するスポットが増えつつあり、街全体で、地元棋士や将棋文化を応援する風土が高まりつつあります。

瀬戸市が瀬戸少年院と連携して実施している事業は、主に①“社会を明るくする運動”②せと福祉マルシェ③市内保育園での清掃活動の 3 点が挙げられます。



焼き物（瀬戸染付焼）

①について、推進委員会の委員に瀬戸少年院長が加わり、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会の構築に努めています。②について、偶数月に市役所の庁舎内で実施している市内福祉事業所の物品販売で、瀬戸少年院にもブースを出展していただき、在院者が製作した製品を販売していただいています。③については、10 年以上前から続く取組であり、令和 6 年度は、6 か所の保育園で側溝の掃除や畑の草取り、駐車場の整備などを行っていただく予定となっています。

また、瀬戸保護区保護司会のサポートセンターを市役所庁舎内に設置し、保護観察対象者の面談等を実施しています。同じフロアには、福祉総合相談窓口を設置しており、担当保護司からの相談により、必要に応じて連携し、支援の実施に努めています。

こうした再犯防止活動を継続していくには、矯正施設、各種団体等の協力と連携が必要不可欠であり、今後も、多くの市民の皆様にも再犯防止についての理解を深めていただけるよう、さらに連携を図りたいと考えています。



窯道具を積み上げて作られた「窯垣の小径」



街で、藤井聡太さんを応援する様子

瀬戸少年院の地域と連携した取組 ～90年目の連携～

『瀬戸少年院』は、「せともの」の町、愛知県瀬戸市内の丘陵地帯に所在しています。

当院は、昭和 9 年に発足した、日本で 3 番目に古い少年院であり、今年 90 周年を迎えました。その間に様々な制度の変更を経て、現在は、7 つの矯正教育課程が指定され、多様な個性を抱えた少年に対して、その特性に応じた矯正教育を実施しています。

当院の歴史を見てみますと、90 年の歩みの中で、地域とのつながりは深く、当院の発足当初から窯業科（現在の製品企画科陶芸班）の指導には、地域の陶芸家の御協力をいただけてきました。また、昭和 31 年からは地域の更生保護婦人会（現在の更生保護女性会）によると思われる「一日母親の会」が行われています。始まった年度は確認できませんが、市立図書館からは定期的にまとまった冊数の図書の出借を受けています。このほか多くの公私の皆様方の支援を受けながら、この 90 年を歩んでまいりました。

当院から地域への貢献としましては、理容学校の認可を受けていた時代には、福祉施設等への「理容奉仕」を行っていたほか、昭和 15 年には「県道修理作業奉仕」を行った記録があり、これ以降現在に至るまで、市内の河川や公園、保育園、子ども食堂、福祉施設等での除草や清掃作業等を行っています。また、昭和 32 年頃からは、書籍の点訳活動も続けています。

瀬戸市と連携した取組として、今年度、6 か所の保育園での清掃作業等の活動を計画しているほか、平成 31 年からは瀬戸市災害時協力事業所として、官舎在住の職員が平時の防災活動に参加し、災害時には当院の設備の一部を提供することとしています。

地域のイベントである「せともの祭」には昭和 41 年以降、出展し、在院生が製作した製品の販売を続けています。令和 4



社会貢献活動「車椅子掃除」

年からは、後述しますが、新たに「せと福祉マルシェ」にも参加するなど、相互連携の活動の場を広げています。

当院では、令和 4 年度から、農業・陶芸・園芸それぞれについて、在院生自らが製品の企画、製造、加工、販売の全てを行い、売上げや反響をフィードバックし、次の製品企画に生かしていくといったことを体験的に学ぶ取組をしています。この取組を通して、90 年の歴史がある陶芸・農業の更なる魅力を引き出すとともに、新たに、当院の敷地で採取した草花を利用した「ハーバリウム」を製品化しました。そして、これらの製品を定期的に販売する機会として、瀬戸市役所を会場にして 2 か月に 1 回開催されている、せと福祉マルシェに出展させていただくこととなり、市内のさまざまな福祉機関・施設と机を並べて交流しながら、小皿や置物などの陶芸作品、たまねぎや切干大根などの農産物、色とりどりのハーバリウムを販売しています。

令和 6 年 6 月の出展で 10 回目の参加となります。マルシェにはリピーターの方も多く、「いくつあっても欲しい。」というありがたい声もいただきながら、次の製品企画へと生かしています。

これからの 10 年、当院の 100 年目に向けて、地域とのつながりを一層大切にしていきたいと思います。



ハーバリウムと切干大根



せと福祉マルシェ